

「勝ち組、負け組」 ヨハネの手紙 I 5 章 1-5 節

「勝ち組」「負け組」と言われて、皆さんはどう思いますか。「負け組」と言われて、いい気になる方はほとんどいないことでしょう。勝負をしていない時でも、私たちはいつの間にか「勝ち負け」にこだわる時があります。今日お読みしたヨハネの手紙が書かれた背景にも、そのような「勝ち組」「負け組」が存在していました。「救いはキリストではない」という反キリスト者、そして「イエスはキリスト」とするキリスト者。それぞれが主張し合い、主が私たちに何を教えてくださったのか、その本質を見失ってしまっていたのです。だからこそヨハネは正しい福音の教えを示し、いわゆる「異端」に対する警告を与えたのでした。

神から生まれた者に与えられる特権である2つ、互いに愛し合う神の家族であること、そしてこの世に勝利していること、それが本日の個所の内容です。

「イエスがキリストであると信じる者」は、肉体の死で終わるのではなく、キリストを信じることによって永遠のいのちを得た、これを確信する者です。そのような者は全員神から生まれました。地上のいのちは親から生まれますが、霊的ないのち（永遠のいのち）は神から与えられたものです。そして、神から生まれた者はすべて、神を愛し、「その方によって生まれた者」＝「神の家族」をも愛する、と言うのです。さらにヨハネは、互いに愛し合うことは神の命令であるけれども、その命令は重荷とはならない、とも語っています。クリスチャンは神さまの喜びが自分の喜びとなるから、神さまの命令が重荷とはならないというのです。教会の仲間を愛することは神の喜びであり、自分自身にも安らぎと喜びをもたらします。決して、不安や疲れに導くものではありません。これをあなたは出来る、とヨハネは言うのです。

そして、4-5 節では「世に打ち勝つ」と3回も繰り返し出てきています。どれほど「世に打ち勝つ」ことが大事かを伝えていきます。「世に打ち勝つ」とは、いわゆる世間一般に言われている「勝ち組」になれということではないのです。この世の価値観とは、すぐに変化してしまい、今日正しいと思っていたことも明日にはどうなるか分からないのが「この世」です。クリスチャンにとってこの世とは、神から引き離す、神とは違う方向に向けさせる力と言うことが出来るでしょう。自分の欲、自我だけに没頭してしまう、神から離れた状態にどっぷりつかっていること、それが「この世」です。この世のものは一時的で永遠ではありません。一時的なこの世の価値観に従ってしまうと、一時的には豊かになっても心は満たされません。この世の栄光に捕らわれないような生活をする、この世の敗北者のように一見思ってしまうかもしれません。しかしそのような生き方が私たちには求められているのであり、そのような生き方へと導くのが信仰ではないでしょうか。

クリスチャンは永遠のいのちを持っているから、世に勝利しているのです。また、この地上においてはどんなものにも服従しません。なぜなら、神に勝るものはないからです。自分を安らぎで満たすのはこの世のものではなく神の愛、と知っているからです。信仰をもって歩んでいくには、今も生きて働いておられるイエス・キリストを信じ、その方の力に突き動かされて日々過ごしていきたいと願います。